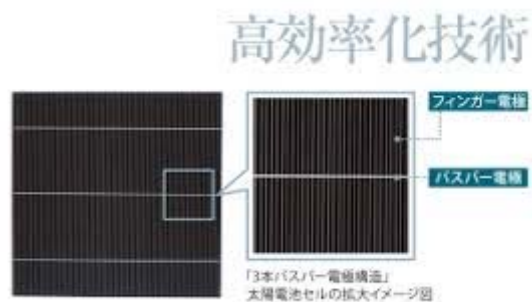


2017/3/10

(日々雑感 43)



売薬を飲んで悪寒と関節痛及び頭痛が一向に治らないので、やむなくご当地の内科医院を訪ねると、検査の結果と問診から、インフルエンザでも風邪でもなく、慢性閉塞性肺疾患、いわゆる COPD のせいだと言われました。更に今後のために一応レントゲンを撮ると言われたのですが、その映像を見た結果、先生が

「COPD に加えて問診では睡眠時無呼吸症候群 (SAS) もあるとおっしゃってましたが、この映像を見ると幼児期に同居のおじいさんかおばあさんから結核を貰っていますね。発病はしなかったのですが、上記二つを兼ね併せると、よくまあ、これまで生きてこられたという感じですね。かなりおつらかったでしょうね」

と意外なことをおっしゃいました。

そういえば、去年頸と腰の 8 時間に及ぶ同時手術をした後の、6 ヶ月検診の折に、執刀医の院長先生から

「予後は良いようです。しかし、基本的に骨がつきやすい体質です。遺伝です。脊椎骨増殖症といって、骨がドンドン増えて、最後は背骨が一本の鉛筆みたいに曲がらなくなります。今の医学では解決策がないのですよ」

「じゃ、どうすればいいんですか？」

「そうなる前に、天に召される以外には今のところ方法は・・・」

で、その後は実子と奥さんから

「金だけ残して死んでくれるのがベスト」

と面と向かって言われたり。

「そもそもお金が欲しいなら欲しいと正直に言った方がまだしもまともだ。持って回ったような屁理屈こねるよりは」

と言った先の答えが上述の言で、もう少し詳しく言うと

「なら言ってやる。あんたは財布としてしか存在価値がない。言いなりにならないなら、金だけ残してさっさとあの世に行ってくれるのがベストだ」と。で奥さんも同意。

それやこれやを、考え合わせると、どうもぼくは、本来とうの昔に天に召されて然るべきだったのが、天意に反して、想定外に生き延びてしまったことから、これらの事柄が次々

に起こっているのではないのか？このような天意に反する者を捨てておく訳にはいかない
ので、次から次へつつぶしにかかっているのではないのか？と。

神仏から、家族から親類縁者から、みんなそろっての願いが

「うつ病から立ち直って以降の11年間が完全に余計！！何であるときまで消えてくれ
なかったの？とにかく早く死んでくださいよ！！」

なのでは、と。

まあ、こんな生活をしていると、頭もおかしくなっても来ます。考えることが妙にもなっ
てしまいます。

しかし、所詮神さまとて、人間が考え出した思考の産物に過ぎません。その考え出された
ものに考え出した当人である人様が負けるのは面白くありません。納得も行きません。

一方、家族や親類縁者である人間界の方は、血のつながりのある者よりないものの方がと
ても助けになってくれているという状態になっています。

もちろん四六時中付いて面倒を見てくれると言うことではありません。毎日ほんの1、2
分。場合によっては二三日おきに、その1、2分だったり。

それは、助けてくれているとか手をさしのべてくれているとか言うより「気がつくとか助か
っている。救われている」という、してくれている本人も意識していないし、こちらも事
後にならないとわからないような・・・でも助かって救われている、というそう言うよう
な人々がいる事に気づかされました。

これは正直、神仏よりも有り難い存在です。

なので、もう少し先まで行けそうな気がしています。

ちょっとしたことを最大エネルギーに高効率変換する。これがサバイバルの基本のひとつ
かもしれません。